保健体育（体育）の実践事例

◇ **本単元で育成する資質・能力**
仲間と協力してチームの課題を解決する力

◇ **学年**　第２学年

◇ **単元名**　球技（ネット型　バレーボール）

◇ **本単元の目標**

・状況に応じたボール操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することができるようにする。

・主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること，合意形成に貢献しようとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。

・技術などの名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

時	本単元の主な学習活動
１・２	試しのゲーム【段階１】
３・４	チームの技能や特徴に応じたフォーメーションの工夫（本時）【段階２】
５～10	オーバーパス，アンダーパス，スパイク，サーブ，ブロック，三段攻撃，フォーメーションの工夫，ゲーム，ルールおよび審判方法【段階３】
11・12	バレーボール大会の運営

［本単元の特徴］
本単元の目標の達成のために，次の３段階で展開する。
【段階１】試しのゲームで課題を見いだす。
【段階２】解決策を見いだし，実施し，振り返る。
【段階３】更なる課題の解決を目指す。
高等学校１年次までの学習により，バレーボールの基本的技能が概ね定着している状態である。そこで，「ボールを拾う，パスをつなぐ」という機能的特性に注目し，連携した動きの工夫を通して課題解決に取り組ませる。
仲間と協力し話合いや試行を重ねる学習を，単元の前半に実施することで，生徒の受容感を高めながらバレーボールの特性を味わわせ，その後の学習において，より正確に，より複雑にボールをつないだり，空いたスペースにボールを落とす等の課題に対して，主体的に取り組むことができるようにする。

◇ **本学習の目標**

チームの技能や特徴を踏まえて，ボールを拾い，パスをつなげるために有効なフォーメーションを工夫することができるようにする。（思考・判断）

◇ **学習の流れ（3･4時間目／全 12 時間）**

学習過程（○教師の発問，●生徒の反応予測）	指導のポイント	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　課題を見いだす。 ○前回の試しのゲームから，皆さんパスの技能については，概ね満足できる状態にあることが分かりました。さらにクラス全員がバレーボールを楽しむためには，どのようなことができるようになりたいですか。 ●強くてきれいなスパイクやサーブを決められるようになりたい。 ●もっとボールをつなげたり，ラリーを長く続けられるようになりたい。 ●レシーブやトスがより正確にできるようになりたい。	学習者基点の学び ・生徒の願いや欲求を基点とした学習とするため，体育では教材（スポーツ種目等）の欲求充足機能を明らかにさせる。 【発問の意図】 学びに必然性を持たせるため，生徒の考え（願い）を引き出す。 ・問いに対する生徒の答えを，バレーボールの機能的特性である「拾う，つなぐ，落とす」に分類して整理し，バレーボールには多様な楽しみ方があることを理解させる。	
２　課題を設定する。 ○バレーボールをクラス全員で楽しむために，自分がどのようになりたいか発表してもらいました。これを踏まえ，今回の単元の前半ではボールを「拾う・つなぐ」ことに着目して学習を進めていきます。 ○では，クラス全員がバレーボールを楽しむために，ボールを拾い，パスをつなぐには，どのようなことが大切でしょうか。 ●明確な役割分担 ●意思疎通 ●ポジショニング ●個人の技能 ○ボールを拾い，パスをつなぐために大切なことについて発表してもらいました。これらのことを踏まえ，メンバー全員が連携して動くためには，どのようなことが考えられますか。 ●よりバレーボールを楽しむために，ボールを拾い，パスをつなぐためのフォーメーションの工夫が挙げられます。 【課題】 ボールを拾い，パスをつなぐために有効なフォーメーションとはどのようなものだろう。	【発問の意図】 生徒の考え（願い）を基点とし，課題を焦点化するために，目的（バレーボールを楽しむこと）を確認しながら手段（フォーメーション学習）に導く。 ・本学習の目標を踏まえ，それを達成するための課題が生徒に明確になるように導く。	
３　課題解決を行う。 〔個人での活動〕		

・ボールを拾い，パスをつなぐために有効だと考えられるフォーメーションを，有効と考えられる理由とともにワークシートに複数書き出す。 〔チームでの活動〕 ・個人が考えたフォーメーションをチーム内で発表し，タスクゲームで試すフォーメーションを各チームで３つ決定する。 ・タスクゲームを行う。 次のタスクゲームのルールを理解し，実施する。 ⑴サーブを行う攻撃チームと，受ける守備チームを決める。 ⑵攻撃チームは順番に合計 18 本のサーブを連続して打つ。 （相手チームの準備が整ってから） ⑶守備チームは，サーブ１本毎にローテーションを行い，３種類のフォーメーションを試す。 ⑷ボールが床に落ちる前に触ることができれば守備チームが１点獲得。相手コートに返球できれば２点獲得。 ⑸誰にも触れられずにボールが床に落ちれば，攻撃チームが１点獲得。 ・タスクゲームで試した結果について，チームで振り返りを行い，考案した各フォーメーションは，コート上の空きスペースをどれくらい埋めることができるのかを確認する。 ・根拠を明らかにして最も有効であると考えるフォーメーションを選択する。 ・試しのゲームを行う。	・自分の意見を，根拠をもとに説明することで，断片的な知識をつなげ表現する力を養う。 ・課題を明確にし，アイデアを試行した効果が見とれるようタスクゲームのルールを工夫する。 ・守備チームは，ボールに触るだけで得点できるため課題であるチームのフォーメーションについて意識が集中しやすくなる。攻撃チームは，守備チームのスペースを探すことで，どのような条件がスペースを作るのかを考えることができ，有効なフォーメーションの考え方を学ぶことができる。 能動的な学び ・練習やゲームにおいて，小集団での一方的な教え込みにならないよう，質問やアドバイスを互いに行える工夫をする。 ・能動性を引き出すために学習集団全体の受容感を高める工夫をする。 深い学び ・フォーメーションをチーム内で１つ選択する根拠を整理させることで球技（ネット型）における戦略の概念を理解させ，学びを深める。 ・生徒が発表した，フォーメーションを選択する根拠を分類し，法則性を導き出す。	
４　自分の考え（解決策）を表現する。 ・自分が考えたフォーメーションとその有効性について，ワークシートに記入し，チーム内で発表する。 ・各チームで最も有効であると考えたフォーメーションを１つ選び，選択した根拠，成果と課題をまとめ，全体へ発表する。 ・他のチームの発表を参考にして，自分たちのチームのフォーメーションについて再度検討する。	【フォーメーションを選択する際の根拠の例】 ・チームのメンバーのスキル　・チームの攻撃の特徴 ・相手チームのサーブの特徴　・相手チームの攻撃の特徴 ・ローテーションにより変化するポジション ・セッターのローテーション　等	チームの技能や特徴を踏まえて，ボールを拾い，パスをつなげるために有効なフォーメーションを工夫している。 〔思考・判断〕 （ワークシート・行動観察）
５　振り返りを行う。 ・本時を振り返り，バレーボールのフォーメーションを考える中で理解したことや，チームでの話し合いの中で気付いたことをまとめる。	・フォーメーションをチームで共有することの有効性とともに，チームで協働的に課題を解決する過程での気付きをまとめさせる。	

【実践結果】生徒の変容

1　課題の練り上げの状況

・課題を見いだす段階で，球技（ネット型）の機能的特性に気付かせるため，本単元の本質的な問い「全員がバレーボールを楽しむ方法」について考えさせた。生徒の，「強いスパイクが打てたら楽しいと思うが，ネットを挟んでラリーが続くと，よりみんなが楽しめると思う。」という発言を取り上げ，本単元の目標を踏まえ，学びの姿を明確にする問い「ラリーを楽しめる（拾い，つなぐ）ゲームを行うためには何が必要か」について話合いと発表をさせた。生徒たちから，「空いたスペースを埋めるためのポジショニング」や「お見合いを無くすために意思疎通を図る」等，試しのゲームを振り返り，ポジショニングや仲間と連携した動きに関する意見が出され，本学習の課題を「ボールを拾い，パスをつなぐために有効なフォーメーションの工夫」と設定した。

2　課題達成の状況

○　教師の見取りから

・生徒に根拠を明確にすることを強調してフォーメーションを考えさせたことで，相手のサーブや攻撃の特徴，仲間の技能や特徴等，様々な要因を分析しながら，フォーメーションを工夫することができた。

・仲間と協力して，ボール拾い，パスをつなげるために有効と考えられるフォーメーションの試行を繰り返した結果，チームでパスをつなぐことができる機会が増えた。

○　生徒の感想文から

・様々なフォーメーションを試した結果，チームに合ったものを見つけることができた。フォーメーションの形を整えて空いたスペースを作らないことはもちろん，ボールに触るときは声を出すなどチームで決めた約束を守ろうとすることも大切だと感じた。

・チームで協力しフォーメーションの工夫を行った結果，ボールがつながる場面が増え，バレーボールを楽しむことができた。もっとボールをつなげられるようになりたい。

・今まで，自分自身の技術を高めることに重点を置いてきたが，今回の学習を通してフォーメーションの工夫に興味を持つようになった。所属しているバドミントン部の練習でも，ダブルスにおけるフォーメーションを工夫していきたい。

3　振り返りにおける生徒の気付き

・チームの課題について話合いと試行を繰り返すことで，チーム内のつながりが深まり，互いに質問やアドバイスをする機会が増えた。仲間にアドバイスをする場面では相手のことを思いやり，分かりやすく伝える力が身に付いた。

・バレーボールがあまり得意ではないが，フォーメーションを工夫したことで，仲間に助けてもらいながらボールをつなげられたので嬉しかった。休日に友だちとバレーボールで遊んでみようと思う。

【改善の方向性】

ワークシートの記述から，多くの生徒がフォーメーションの工夫を行うことの効果を実感していることが見取れた。

一方で，「フォーメーションのことを考えすぎて逆に動けなくなった」という感想を持つ生徒が一部見られた。また，活動中の生徒の姿からも動きがぎこちなくなる場面を見取ることもできた。今後は，「フォーメーションを工夫した結果，ボールがつながった」と全ての生徒が実感しながらバレーボールを楽しむことができるよう，さらに指導の工夫を行っていく。